

平成 28 年度 第 1 回志摩市里海創生推進協議会 議事録

日時：平成 28 年 7 月 27 日(水)午後 2 時～4 時

場所：志摩市立図書館 2 階 展示室

事務局

3 名ほどお着きになられてない方がお見えなんです、時間になりましたので、只今から平成 28 年度第 1 回志摩市里海創生推進協議会を本会議を始めさせていただきたいと思っております。

志摩市では、平成 24 年度から 27 年度までの 4 年間、第一次の計画期間としまして、新しい里海創生によるまちづくりを進めてまいりました。協議会委員の皆さんには、まちづくりに関わる様々な取り組みの方向性を揃えて頂いて、お互いの連絡調整を図って頂きながら、これまでに多くの事業を進めて頂きましたことをまず御礼を申し上げます。本日の協議会につきましては、今年度から平成 32 年度まで、5 年間の第二次計画期間の第 1 回目の協議会となります。お手元に委員の委嘱状をお配りさせて頂いておりますので、よろしくお願い致します。第一次の計画期間から委員をお願いさせていただいている皆さまには引き続きよろしくお願い致しますとともに、新たに委員にご就任頂いた皆様にも、今後ともぜひよろしくお願い致します。

それでは、事項書に沿って本日の協議会を進めてまいりたいと思っておりますけれども、半数近い委員の方が交代をされておりますので、最初に簡単に自己紹介からお願いをしたいと思います。追って来られてない方、着かれ次第また自己紹介をして頂きますので、1 番テーブルから順にお願い出来ますでしょうか。高山先生からすいません、右回りをお願いします。

高山委員

委員名簿 1 番上にあります三重大学を昨年 3 月に退職しました高山といたします。専門は環境政策を専門としております。どうぞよろしくお願い致します。

山際委員

私真珠養殖業者の三重県真珠養殖連絡協議会会長をやっております山際です。一応真珠養殖で海のことには結構携わっておりますけれども、皆さん大分替わってしまいましたので、前は立神の原条さんが結構海のことには取り組みもしておりましたので、この中におらんのは、ちょっと残念なことです。

前田委員

鳥羽志摩農協の前田といいます。6月25日に役員改選がありまして、前任者の浜村より引き継ぎをさせて頂きまして今度新しく就任させていただきました。どうぞよろしくお願い致します。

北山委員

失礼します。志摩市の上下水道部長をさせていただいております北山というものでございます。よろしくお願いいたします。

雨宮委員

環境省志摩自然保護官事務所の雨宮と申します。伊勢志摩国立公園の管理としまして、各種の開発規制、また干潟再生事業に取り組んでおります。よろしくお願い致します。

浅井委員

失礼します。今年度志摩市女性の会の代表をさせて頂くことになりました浅井です。よろしくお願い致します。

松田委員

皆さんこんにちは。私は、松田と申します。もともとはちょっと遠いんですが瀬戸内海広島大学で、海の環境の事とかやっていたんですが、13、14年前2003年から英虞湾再生のプロジェクトという大きなプロジェクトありましてその研究コーディネータ等務めさせていただいております。その後海の健康診断とか環境省の里海創生とかずっと志摩市にお世話になっています。あの合併前からですね色々お世話になっております。よろしくお願い致します。

坂下委員

こんにちは、志摩市商工会代表ということで、よろしくお願い致します。坂下と申します。

重松委員

皆さんこんにちは、三重県の南勢志摩地域活性化局の重松と申します。4月に異動がございまして、昨年度までは野村というものが参加させて頂いておりました。私今日が初めてでございます。色々資料も頂いて、拝見しております。ただ、なかなか絶対的な時間が短かったので、わからないことも多々ありますので、しっかり勉強して追っていきたいと思います。

谷崎委員

失礼致します。遅れてきて申し訳ありません。私市役所総務部長の谷崎と申します。こ

の4月からメンバーとしてなりましたので、今後ともよろしく願います。

稲田委員

失礼致します。私志摩市産業振興部長の稲田と申します。志摩市の方改革がございました、産業振興部というのが、新たに出来ました。以前は、農林水産部で里海も部署に入っておったんですけれども、里海が企画の方へ替わりまして、そのあとに観光と商工が農林水産にひっつきまして、産業振興部という名前になっております。去年は私生活環境部ということで、こちらの方へ入らせて頂いておりましたんですが、今年は産業振興部ということで、こちらに入らせて担当させて頂きますのでよろしく願います。

西尾委員

名簿の5番の志摩市観光協会の西尾です。どうぞよろしく願いたします。

北村委員

すみません。鳥羽磯部漁協から来ました北村です。前回に引き続いて委員をさせていただきますので、よろしく願います。

山本委員

子育て支援団体プラットホームの代表をさせて頂いております山本です。よろしく願います。

海洋政策研究所 大塚

こんにちは、名簿でいいますと欄外になっておりますけれども大塚と申します。海洋政策研究所東京から来ております。小さい頃からこの志摩には親しませて頂いて赤ん坊の頃から遊びに来させて頂いています。そういったご縁もございましてこちらでの仕事を非常に楽しみにしております。よろしく願います。

小森委員

こんにちは、委員名簿ラストの22番教育部長の小森と申します。よろしく願います。

川口委員

皆さんこんにちは、政策推進部長の川口と言います。先程産業振興部長からもありましたが、今年度から里海推進室が政策推進部にきましたので、今後ともよろしく願います。また、サミットの折には、本当に皆さんに大変お世話になりありがとうございました。おかげさまで、本当に無事に大成功で終わることが出来ました。もう一つですね、昨年度はふるさと納税がたくさん集まりました。6億4千万円で東海3県で一番ということでもちろんサミットの効果もあったんですけれども、志摩市のこういった里海政策ですとかそう

いったことが、全国の皆さんに指示されたのかなというふうにも思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

(岡山委員代理) 濱野委員

皆さんどうも遅れてきて申し訳ございません。名簿の20番の市民生活部長の岡山部長の今日は代理ということで、市民生活部の調整監をしています濱野と申します。昨年までは、里海推進室長ということで、この場を執り仕切らせていただいたところですが、今年度も引き続き関わっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

井上委員

三重外湾漁協の常務の井上でございます。私引き続き志摩の方の担当をしておりますので、よろしく願いいたします。

福田委員

皆さんこんにちは、伊勢志摩スタンドアップパドルボード協会の福田と申します。私生まれも育ちもこの志摩なんですが、この志摩の立地条件を活かして県内外から多くの方々にこの志摩に来て頂けるようにという形で、皆さんと協力しながら発展に続けられたらと思っています。よろしく願いいたします。

森本委員

皆さんこんにちは、建設部の森本です。4月から建設部に配属になりましたので、この席は初めてですので、よろしく願いいたします。

津本委員

三重県水産研究所で研究管理監をしています津本と申します。私この4月から今の部署に来ました。昨年の山田に替わりまして新たに委員として参加させて頂きたいと思っています。よろしく願い致します。

事務局

ありがとうございました。続きまして、事務局につきましても、ちょっと人事異動がありましたので、自己紹介をさせて頂きたいと思います。

浦中室長

私先程自己紹介頂いた濱野調整監の後を引き継ぎまして、4月から里海推進室長を務めさせて頂きます浦中です。よろしく願い致します。

大形係長

皆さんこんにちは、4月から美化衛生課ごみの部署から里海推進室に異動になりました大形と申します。よろしくお願いいたします。

浦谷係長

失礼いたします。私7月1日の人事異動で健康推進課から里海推進室の方に替わりました里海推進第二係長の浦谷と申します。よろしくお願いいたします。

岩城主査

私の方、今年で6年目になりました。里海推進室で、室長と同じく古株となりました岩城裕子です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

では、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に移らせていただきたいと思いますが、今回委員の改選が行われたということで、協議会の議長は会長に務めていただくことになっているんですが、事項書2番の会長副会長の選任まで事務局で進めさせて頂こうと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、事項書2番会長、副会長の選任に入らせて頂きたいと思います。協議会の設置要綱第4条で、協議会の会長それから副会長は委員の互選により選出するという事になっているわけなんですが、会長、副会長の選出方法について委員の皆さんのご意見をお伺いしたいと思います、いかがでしょうか。

井上委員

よろしいですか。事務局一任でいかがですか。

事務局

井上委員の方から事務局一任でどうかというご意見を頂きましたが、皆さんいかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

事務局

異議なしの声を頂きましたので、事務局案としてのご提案をさせて頂きたいと思います。

会長には、第一次の計画期間から会長を務めて頂いておりますけれども高山委員に引き続きお願いさせて頂いて副会長はこれまで商工会の坂下委員に務めて頂いていたんですが、

第二次計画期間の今回の任期については、観光協会の西尾委員にお願いしたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

委員一同

異議なし

事務局

ありがとうございます。

異議なしの声を頂きましたので、高山委員、西尾委員よろしいでしょうか。

高山委員

はい。

西尾委員

はい。

事務局

それではご承認頂いたということで、会長、副会長席へお移り頂いて、一言ご挨拶を頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

高山会長

はい、僭越ながら会長に選任して頂きましたので、全力を尽くしたいと思います。私計画の時からなので、もう5年やっているんですが、やはり第二次の計画に入ってくるとあと5年二次が続くという大事な時期ですので、私としてもマンネリにならないよう新しい気持ちでまた取り組んでいきたいと思います。

それで、里海政策というのはですね、段々目鼻がついて形になってはきているんですが、やはり根本に立ち返って、基本に立ち返って第二次今出発の時ですので、それで作っていきたく思うんですね。根本は何かというと、計画の中に書いてあるんですが、次の言葉に集約されていると思うんですね。それは、「市民一人ひとりが取り組みに参加し、その恩恵を受ける。」もう一つは、「関係者それぞれが連携して取り組み、その恩恵を受ける。」この2つの文に集約されているように思うんです。その点で必ずしも順風満風にいったかということ足りなかった所があったと思います。やはり特に参画という言葉とか連携ということですね。そのことをしっかり踏まえて第二次計画を進めることが出来るかどうかということがかなり大きなポイントになっていると思います。ということなので、是非とも新しい方には、急に沢山の文書が手元に渡って大変だとは思いますが、ぜひ皆さま方も全力で関わって頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

西尾副会長

改めまして皆さまこんにちは、副会長ということで、重責を担わせていただきます。よろしくお願ひしたいと思ひます。昨日今日、新聞の方にも報道されましたように、伊勢志摩国立公園がナショナルパークに活かされたということで、8つの中に選ばれたということですね。これは、この地域の景観も良かったし、いろんな部分で、国の方が政策として適切な場所であるということをご認識いただいたということと、又、終わりましたサミットの影響も大きかったのかなというふうに思っております。こういったことを契機に、この里海というのは、まさに合致している部分ですので、先程高山先生もおっしゃたように、市民一人ひとりが参加して、そしてみんなが連携をしてこの地域を盛り上げていければと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

高山会長

それでは、事項書に沿って、いきたいというふうに思ひます。次は3番ですね、第1回協議会のねらいと獲得目標ということについて、事務局の方よろしくお願ひ致します。

事務局

それでは、事項書3になります。「第1回協議会のねらいと獲得目標について」ということで、A4の1枚の資料でねらいと獲得目標を事前にお送りしてあると思ひますので、ご覧ください。

本日の協議会では、2つのねらいと獲得目標を設定させて頂いております。初めてご参加いただく方もお見えになりますが、この協議会では会議の冒頭で今日何を議論して何を皆さんで協議していただくかということを確認してから議論を進めるという形になっています。まず、最初に今回の協議会は、何度も申し上げますが、第二次計画期間の最初の会議ということになりますので、これからの協議会での議論の進め方についてまず整理したうえで、皆さんに共有をして頂きたいと考えております。2つ目に第一次計画期間中には3つの重点事業を指定して取り組みの進捗を図ってきたわけなんですけど、今回の協議会では、第二次計画期間に具体的な事業化を進めていくうえで、第一次計画期間中の取り組みの評価を行ったこと、それから今年度伊勢志摩サミット開催で知名度が向上しているということも踏まえていただきながら、先程高山会長のご挨拶にもありましたけれど、市民一人ひとりが取り組みに参加して、関係者の皆さんがそれぞれ連携して取り組んで、その恩恵を受けることが出来るような形で、第二次計画期間中にどのように事業を進めていくかということをご議論頂いて協議していくことを今回の協議のねらいと獲得目標として設定させて頂きたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

高山会長

2の から については、細かくは言われなかったんですが、これもちょっと言って頂いた方がいいかと思います。

事務局

はい、わかりました。ねらいと獲得目標の2番なんですが、これにつきましては、第一次の計画期間の間に沢山の方にいろんな事業を行っていただいております。今回お手元にお配りした27年度の取り組み実績集とか平成28年度の取り組み計画集をお配りさせていただいているんですけども、本当に多くの事業、140位の里海関連の事業が実施されています。これまで協議会では、こうした取り組みの状況を皆さんで共有して頂きながら、委員の皆さんそれぞれが実施されている事業の中で里海の創生に向けて方向性を揃えて事業をやっていくという形で情報共有を行ってきました。

その一方で、それぞれの事業がどういう成果につながっているのかということにつきましては、平成26年度に評価専門委員会を設置しまして、進捗状況の評価の作業を行ってはいますが、計画上は本来毎年みんな、今年1年このようなことを行いました。その結果こういうふうな成果が出ましたということを確認していくということになっています。取り組み項目が第一期は、51項目ありまして、その一つひとつの成果を確認していくということが、出来てこなかったということが、まちづくりの成果が見えにくいというご指摘をいただく原因になっているかと思われましたので、2番の項目に書かさせて頂いておりますのは、ある程度皆さんで成果を確認しながら取り組みを進めていく。ただ全ての項目について成果を確認するのはなかなか難しいものですから、ある程度優先的に取り組みを進めるといふ項目というものを、ご議論頂いてその項目について集中的に事業の進め方であったりとか成果の出現について確認しながら協議を進めていくという形で今後進めていったらどうかということで、2番の項目を設定させて頂いております。

高山会長

はい、という事務局の方からの報告なのですが、この3の提案に関しましてご意見とか感想とかありましたら、どうぞ出してください。

では、ちょっと補足しますと、計画書そのものは今日無いのですが、計画書によれば全部で54項目にわたってあるんですね。それで事業が150位あるらしくて、今日の資料でいいますと、計画集とか実績集とか分厚い2冊の冊子があるんですが、それは54項目150位の事業ということで、整理されているわけなんですね。非常にこの種類が多い、数が多いという形になっているわけなんですね。里海というのは、あらゆる取り組みが里海に関わるというのは、否定できないものですから、全部網羅するとこういう形になってしまうと。

ですが、網羅されると、何をやっていいのか何をやっているのか逆に見えにくくなってしまいうんですね。そういう意味で一期の中で進めた一つの重要なことというのは、この2

の に書いてありますこの3つの具体的な事業を絞っていこうという議論をしましてそれをかなりしっかりと進めたんですね。150いくつの事業があるのにたった3つに絞れるかというんですが、この里海学舎構想は観光の有り方にかかわります。地域資源のテキスト化というのは、いろんな資源がありますけれども何が本物であるかということをお私たちが自身が自覚するということですね。それから干潟拡大これは里海政策の基本中の基本で、まず自然を保護したり再生したりする、それをベースに儲けるとか観光とか遊ぶとかが出来るはずなので、ベースになるこういうものを大事にしようということで干潟拡大というのを一つの具体的な事業にしたんですね。そういう意味で3つの重点的な取り組みということで、絞っていった。これが第一期の成果だったと思うんですね。

第二期に向けてしなければいけないのは、3つだけかということ恐らくそうではないと思うんですね。もう少し周辺のといいますか里海政策の大事なポイントになる項目をやはり第二期に向けていくつか絞っていきながらそれを具体的に進めるにはどうしたらいいかということを検討していく事がすごく今大事になっている時期だというふうに思うんですね。そういう意味で の所を見ていただけますか。 のところで、第一期計画期間で評価の低かった項目がいくつか指摘されています。それからさらに、伊勢志摩サミットの成果を活かし地方創生に向けて優先的に取り組みを進める項目について検討していこうと。ですから、3つの具体的な取り組みというもの以外に優先的に取り組むべき項目は何なのかということをおこれから議論の中で検討していきたい、そういう流れになっていると思うんですね。

そういう意味で、第二期の1回目の会議は、今座って頂いているようにワークショップ形式になっておりまして、このワークショップ形式の中で、個々の優先的に取り組みを進めるべき項目は何なのかということをおですね、ちょっとブレインストーミング的に色々話し合っていこうじゃないかというのが、今日のこの会議の設定になっています。一応そういうねらいで今日の会議を進めたいというふうに思っています。この点に関して何かご質問とかございますか。ご理解していただきましたでしょうか。はい、では何人かの方願って頂いているようですので、そういう事でもって進めていきたいというふうに思います。特に意見としては、出てきていないようなので、次の4のところ、じゃあ議論をどのように進めていくかということにつきまして、提案がありまして、そしてそのグループ討論のような形で項目をしぼっていく議論に進んでいきたいとします。じゃあ4の提案をよろしくお願ひします。

事務局

それでは、事項書の4番をご覧いただきたいとします。事項書4番第二次里海創生基本計画期間の協議の進め方についてということで、資料2というふうに書かせて頂いておりますけれども、資料2は、縦長でカラーで印刷されたA4の資料ですね。一番上に資料2と、それからもう一枚が緑の本日机の上に置かせて頂きました資料2補足と書いたこ

の二つの資料でご説明をさせて頂きたいと思います。あらかじめお配りさせて頂いたものが資料2、本日机の上に置かせて頂いたものが資料2補足の2種類ございます。

よろしいでしょうか。改めてご説明させて頂きたいと思います。先程高山会長からご説明頂きましたけど、第一期はほんとに多くの取り組みを皆さんにそれぞれ進めていただきました。まちづくりの自然の恵みをしっかり保全しながら持続的に活用出来るようにみんなで取り組みましょうということで、まちづくりにつながるような取り組みを進めて頂いたんですが、それぞれにいろんな事業を行って頂いてきましたけれども連携して取り組む部分、それからより多くの人を巻き込んで取り組みを進めていくところの議論が若干欠けていたかなというのが1点、それから2つ目として取り組みが行われた結果どのくらいまちづくりが進んだのかということをおまわり議論してこなかったという2点があるかと思っています。このあたりをしっかりと反省して第二次は協議を行っていくべきかと考えておりますので、まず資料2について少しご説明をさせて頂きたいと思います。

事務局

それでは、失礼いたします。

基本的な協議会の進め方については、本日お配りをさせて頂いております資料2補足資料として資料の上段をご覧ください。里海創生推進協議会の役割と致しまして、大きく3点あります。まず、1点目が、「まちづくりの方向性を共有して、それぞれの取り組みに反映する」こと、次に2点目が「市民一人ひとりが参加して、連携できる取り組みを模索する」こと、最後の3点目は、「里海事業の取り組みの進捗状況と成果を共有する」ことです。その中で、3つ目の「里海事業の取り組みの進捗状況と成果を共有する」の役割については、下段のイメージ図のような流れで協議をして行ければ良いのではないかと考えています。

年間の第1回目の協議会で、その年の取り組みの内容を確認し、第2回では、取り組み状況の中間とりまとめを共有して、課題がある場合にはその解決に向けた協議を行っていただきます。そして、第3回の協議会では、取り組み結果の概要や成果指標の動向を確認して、まちづくりの進捗状況を皆さんで共有するとともに、市民や関係団体の皆さんにもお伝えするという形で進めてはどうかと考えています。

ただ、成果指標の動向を確認すると言いましても、第二次計画期間については取り組み事項が54項目あります。その項目の一つひとつについて協議会の限られた時間の中で、進捗状況について意見交換するのはちょっと難しいと思います。そこで、すみません。先だって送らせて頂いています資料2をご覧ください。縦長の資料、そこで資料2下段をご覧くださいのですが、今回の協議会は第二次計画期間の第1回の協議会となることから、重点の3つの事業のほかに、優先して取り組みを進める項目をある程度絞り込んではどうかと考えています。その項目ごとに作業部会を設置して、より多くの人を巻き込み、関係団体が連携できるような具体的な取り組み内容を検討し、その取り組みの進捗状況の成果

となる指標について検討していければ、協議を行う段階で、関係団体の連携についてもより強く出来るのではないかと思います。

また、協議会の設置要綱では、3つの沿岸域ごとの特徴を踏まえた検討を行う必要がある場合には、地域ごとの分科会を設置することが出来ることとなっています。この分科会を設置すべきではないかという意見が出されていますので、項目によっては、このような分科会の設置についてもあわせてご意見をいただければと思います。

以上、事務局案となりますが、ご検討をよろしくお願いいたします。

高山会長

それでは、資料2とその補足これに基づいて、この一年間やっていくべきことのご提案があったんですが、何かと難しい話なので、ぜひそのもうちょっとよくわからないので、よく理解したいのでこういうことを教えてくれとかというような議論に持っていきたいと思います。

ということで、急に色んな事を言われたので、恐らくちょっと混乱されている段階だと思いますので、ここんとこどうなんだという理解を進めるための質問を色々受けたいと思います。どうぞ

福田委員

すいません。私実際この会議初めて出席させて頂いて、おこがましいんですが、この里海推進の意図目標ですが、志摩市に人を呼び入れて志摩市全体の地域で生活している人たちとか多くの人たちが一緒に繁栄していく状況、また未来に向けて次世代につないでいく状況を見いだす中で、僕自身この中で見させて頂いて、僕が一番若いと思うんですね。年齢的に52歳にもなるんですが、実際その中で、僕たちより下の世代の子たちにもやはり協力体制と連携をつないでいくことも絶対確かだと思いますし、この地域で昔僕たちが若い頃は青年団というのがあったんですが、今各地域に青年団というのが地区にどれくらいあるのかはちょっと把握してないんですけど、実際この地域で僕たちが若い時志摩市全体で青年団のある地域がどのくらいあるのかまたなければ地元僕たちより若い30代40代またその下の若い世代の子たちで、活動していくといたら消防団だと思うんですよ。消防団で地元地域の事も良く知っていて地元の地理も知っていて、よし悪しもまた危険な場所もいろんな部分で連携していく中で、人を呼び込むけど、自分たちの足場自体を知らない状態で広げていってもいけないだろうし、その子たちも巻き込んでこの里海の設計を第2項目に上がってくる市民一人ひとりの参加というふうにつながっていくでしょうし、自分たちの孫ひ孫につながっていく中で、こういう情勢の中で地域の中で発展させていくために、こういう努力をしているんだよ、こういうところには、志摩市にはこういうロケーションがあって友達になった人たちを呼んで、楽しませてあげてまた、それが事業につながり、このサイクルにあるように、稼げて楽しくて学べるものに繋がるのかなと僕は資

料をずっと見させていただいて客観的に思った経緯なんですけど、実際各皆さんの役職の中で、下の人たちにトップダウンでなくして、下の子たちにこういうことやるんだけど、ちょっとこういう会議に集まって会議やるからちょっと顔出してくれんか傍聴してくれるか、純粋な気持ちで受け取った気持ちをどうだというふうに吸い上げて議論していくのがいいのかなと思ってはいるんですけど、僕自身サーフィンのフィールドがありまして、その中で、今度新たにスタンドアップパドルボードといいまして、この協会の会長職をやっているんですが、ボードの上に立って水上の上を散歩する、都心の方では東京お台場とか大阪の方では道頓堀の橋の下を一般の人たちが現実を離れて楽しむという状況下がどんどん繁栄してきている中で、この志摩市にはリアス式海岸内海もあり外海もあるという、やはり人呼び込むことが出来るんですけど、この中で地元の人たちといかに繁栄してまた共存してリピーターとして、伊勢志摩サミットで、僕個人的には成か功かまたそういう部分で、何があったのかなと疑問に思うところしかないんですけど、それだけテレビやまたいろんな形で発信されて、この伊勢志摩を発信してもらったという部分では、すごくメリットがあったと思うんです。その良さをやはり今一度県外・海外に何かを発信してやっていこうとすると、この会が一番キーワードになり核になると思うんですよ。その核の中で、やはり表面の光だけでなしに、芯から次の世代の子たちにつながっていくようなものを作り上げた方が良くと思うし、その中で出来ることは、外の人たちの声で、地元の若者の子たちが外へ出てかなくても、ここでこれだけの事が出来るんだというものを作りあげることが大切かなと思うんですよね。それには、各部署の方、又組合の方いろんな部門の方たちが次の世代にちょっとやれるだけのことをやってみー、どれだけの事が出来るんだという親の立場の形で木の上から見て見守りも必要かと思うんですよね、今の若い子たち割と考えてないよう形で考えている部分も確かにあると思うんですよ。僕たちが、「間違ってるんだ、こんなことしてたらあかんやないか」と親におこられることも多々ありましたけど、頭打って段々丸くなって、そこで培った知識とか昔感じたこういうのがあったよな、あそここんなになったらこんなになるんじゃないかという部分でいろんな声を出し合うと思うんですよね。

せっかく志摩5町が海にも面してますし、山もありますし、そういうことを発信していくには、ここのフィールドは、僕も国内外全戦の現役の時は、海外も国内もいろんな所を転戦して見てきた中で、僕自身は、志摩は誇れる場所なんです。ロケーションもいいですし、食べ物もおいしいし、人も本当に今日はいい日和やなあ、母さんどなんやとか父さんどなんやとああやこうやとコミュニケーションが取れる本当に多くの人たちがなじみやすい。変に閉鎖的でない。どうや困ったたらこうしようか、ああしようかという良さのあふれる場所なんで、それを有効的に生かすにも、やはり若い子たちに私たちが住んでいる所はこういう所やと繋いであげてここの会議に出席するのもなかなか場所もありますし、議論も口論もいろんな事がありますけれどもそれをかみくだいてちょっとずつちょっとずつ作っていったらと思うんですけど、取り組みの中で僕たちが出来るのは、僕ら団

体の中で出来るのは、県内外から人を呼んできて良さを広める、地域の人たちとコミュニケーションが図れるという部分の中で、やはりもうちょっと若い子たちの世代の人たちを引き込むことも必要かなと思っております。

高山会長

ありがとうございました。今日福田さんに言って頂いたように、今日集まってもらった人はそれぞれですね、こうしたいんだという提案をお持ちだと思うんですね。それに今日はワークショップ形で、グループディスカッションという形でまとめていきたいという設定なんですね。そこで、ワークショップをグループワークを具体的にどのように進めるかという提案までちょっと事務局の方で言っていただきたいのですが、その前にですね、先程言いましたように大形さんから最初ご説明頂きましたが、まだちょっとこの辺がよくわからないとか、どうなんだという質問を出していただきたいのですが、どうでしょうか。

森本委員

すいません。今日初めてで申し訳ないのですが、建設部の森本です。今回ですね推進協議会という立場でこのメンバーお集まりですので、やはりこの資料を見せて頂きますと、難しいです。私たち行政マンとしてもかなり難しい内容が書かれておりますので外へ出ますと、里海って何ぞや、里海って難しいっていう事がありますので、この協議会の中でも非常に難しい。言葉から何かから難しい。やはり市民レベルでの書きぶりで、市民にわかりやすいようなこの場は協議会という場ですので、当然それなりの役職の方が集まってもらってますが、先程皆さんおっしゃっていただいたようにやはり実際動いて頂けるのは、市民の方ですので、私たち協議会の中でもですね市民レベルで対応出来るような書きぶりとかそこらへんが大事じゃないかなあ、先程福田さんがおっしゃったとおりだと思いますので、確かに内容が難しく、私もついていけないなあという気でおりますので、その辺もちょっとお願いしたいと思います。

高山会長

はい。今の森本さんのご意見というのは、私たちの50いくつかの項目の中の町の魅力の向上と発信とかですね、どうやって発信していくのといったふうなロツテに関わることなんですね。今日のワークショップの進め方は、それぞれご意見とかご提案をお持ちになっているものをグループの中でまず議論しましょうというそういう設定になっているんですね。

海洋政策研究所大塚

すいません、今里海って何ぞやというようなお話頂いて、確かにイメージとしてなんとなくわかるけれども、ほんとはどういうことなんだろ、何をすればいいんだろとなかなか

分かりにくいと思うんですね、ずっと里海に関わってらした方がここにいらっしやいますので、松田先生に少し説明して頂くのはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

松田委員

僕は、先程も申し上げましたように13, 14年目ですけども、始めは結構自然再生という環境を良くするようかなりある意味専門的なものを造るとか干潟を良くするとか魚が住めるようにするとかそういう事で進んできたんですが、やはり市の公的な施策といえますか政策として里海創生推進基本計画も出来て、市の全体計画の中に取り込まれて具体的に進めるという段階では、志摩市全域陸も海も全域を含んで、海を活かしたまちづくりといいますか地域が元気を出していくというそういうのを具体化する、里海とは何かという定義論になると難しいですが、定義が重要ではなくて、海も含めて志摩市の全体をいかに元気を出していくか、良くしていくか先程福田さんのお話があったとおりでと思いますが、そこにそれぞれの立場で、出来るだけ積極的に関わっていくこと。そういう動きが出てくれば、それは志摩市の里海づくりとして。

今でもいろんな意味で客観的にみると私も全国の里海づくりに色々関わらせて頂きましたが、志摩市は、トップランナーといえますか一番制度とかしくみが進んでいるところで、志摩市を参考にして今沢山の人が視察なんかに来られていますけど、そういう意味では、かなりもう第1期は終わりましたし、しくみといえますか制度とか功績になっているとかこういう協議会があるとかそういう意味で一番進んでいるんですが、やはり先程福田さん言われたとおりでと思うんですが、いろんなレベルの市民の人が含めてそれぞれの立場で積極的に関わっていくかというあたりがやはり今志摩市の里海づくりとしては一番重要なのかな。ですから、先程のボトムアップ的なところ、トップダウン的な部分は、志摩市は随分ちゃんといろんな計画とか公的なものもありますし里海推進室が出来たのも日本で初めてですし、今それがさらに今年度からランクアップされるわけですけども、いかに今日の主旨どおりですが、多くの方が具体的に関わって自分たちの地域を良くしていくか、相互にバラバラでなくてなるべく連携していく、そのあたりが志摩市の里海づくりのポイントではないかと思います。あまりリクエストには答えていませんけど。

高山会長

はい、もう少し引き続き、理解を深めるという意味で、質問だとかご意見を出していただければありがたいと思います。いかがでしょう。

雨宮委員

今日のワークショップを進めるにあたって確認をさせて頂きたいんですけども、今日の獲得目標の中で、2ののところですね、「伊勢志摩サミットの成果を生かし・・・」と書いてありますけれども、こちらについてはどういった成果があったかという資料が出て

いないように思います。前提条件として、今考えられる成果を口頭でも教えていただければと思います。

またですね、2の のところで、まちづくりの役割分担を踏まえて、委員の皆さんが所属する団体がそれぞれどのように事業に取り組んでいくかについて意見交換を行いますということですが、それぞれの島にいる委員が、私の団体はこんなことをやりたいというようなことで、話を進めていけばよろしいのでしょうか。

高山会長

では、それに対抗して、どうぞ。

川口委員

あの1点目の質問のサミットの効果を生かしたということで、サミットの効果はいったい何だったんだという質問に対してお答えさせていただきます。確かに事の話はあったんですが、サミットって何が良かったんやろかということを感じておられる方もいる事も事実ですし、私市民にとってサミットの効果は、大きく分けて3つあったと思っております。

まずは、志摩市の伊勢志摩の知名度があがった。これはもう間違いなく世界に発信されていますので、知名度が上がったということは、一つ言えます。

サミットを進めるに当たりまして、多くの市民の皆さんに関わって頂いて、特に今日もお見えになっているんですけど、市民会議というのが立ち上がりまして、市民会議の皆さんが中心となっているんなおもてなしなどとか今後志摩市をどうしていくんだというお話をして頂きました。その中で市と市民とのつながりが本当に深まったのが二つ目でございます。

もう一つ、三つ目は、また市民会議以外でも花いっぱいのおもてなしであったりとか警察官との関わりであったりですとか市民同士のつながりが広がったということで、例えば弁当の協力会とかもありましたし、市民の皆さんが自ら多くの弁当に取り組んだなど、本当に市民同士のつながりが出来た、この三つがこれからの志摩市にとって生かしていくべきサミットの効果だなあというふうに思っております。

この効果をどうして生かしていくかということにつきましては、今取り組んでいくやはり志摩市の地方創生にもつなげていかなくはなりませんし、こういった我々の取り組んでいる里海もそういった効果が見込めるような取り組みを進めていく必要があるように思っております。これは、その効果を生かしていくことが大事なかなと思っております。以上です。

高山会長

雨宮さんからの問いかけの一つ目の質問について、川口さんの方から紹介がありました。

それで、二つ目の事に関してはまだ回答が必要かというふうに思いますので、それはじゃあどうしますか。事務局の方からやっていただきますか。

事務局

この後の議題の中で、実際に優先的に取り組む項目について、ワークショップ形式でご検討頂こうかと思っておりますので、その中でこういった項目を優先事項として取り組んでいくのかを皆さんそれぞれ話し合ってくださいの中で、自分の団体はこういう形でこういうことに取り組んでいくことが必要だと思うとか、今こういうふうに優先的に取り組んでいくんだということも含めてご議論頂くということで、この を設定しておりますので、ワークショップの中でこういうことも含めてより多くの人を巻き込んで自分の団体はこういうことをやりながら他の団体とこういうふうに連携してやっていけばいいのではないだろうかというような視点でご議論頂きたいということで、こういう書き方をさせて頂いております。

高山会長

雨宮さん、よろしいでしょうか。

雨宮委員

はい。

高山会長

これまでのご提案これまでの進め方に関して、こんな事聞いてみたいという意見がありましたら、どうぞよろしくをお願いします。

山際委員

私も、この里海の会議に出てるんやけど、いったいどこまでが里海なのか。この志摩市の計画なのか、その辺のところはまるっきりわからへんのやけど、全て含んでるの？里海の範囲もわからんしさ、その辺のことずっとわからん。ずっと自分の立場で海の事ばかり言っとればいいのか。議論しとると志摩市全体の話をしなあかん。私、前は志摩市の総合計画の方も出たんやけど、それと重なっているのか、全部一緒に議論をずっとやってるんやけど、どのようにすればいいのか、私は私でやっていけばいいのか、私は、海の事しか知らんが、そういう立場でいいのか？以上

高山会長

どういう範囲を設定しているんだと、テーマの扱いは、かなり総花的になっているが、里海のポイントになるのは、何なのかというご意見なんですね。はい、どうぞ。い

つも事務局にふるのではなく、参加者の中で私はこのように理解しているというような意見を出していただくと大変ありがたいのですが、西尾さんいかがでしょう。

西尾副会長

ちょっとイメージしてほしいんですけど、ちょっと根本からいきますと、まず、山があります。ずっときて森があって林があって丘があって田んぼや畑があって、川があって民家があってまた、この先に民家の先に川があって、海岸線があって海がある。こういう大体断面図にするとそういうイメージがありますね。大体川から上の部分が通常で里山という部分だと思うんです。川から下のところが、里海ではなくて、志摩の場合は、海までも全部ひっくるめたのを里海という発想で考えている。そういう中で、生活を皆さんしていますよという事の中で、これを保全しながらあるいは、恵みを得ながら生活しているというところをしっかりと何を自分たちがやれるんだ、参加出来るんだ、これを連携していけばさらにいい地域が作れますよというのが里海の基本的な考え方なのかなと思っています。

この中で、今考えなくてはいけないのは、先程自分たちが海の事に関わっていたら当然海の事をよくご存知なので、こういう問題があるからこういう解決をしなくちゃいけない、こういうところから伸ばしていかないといけないとか後継者の問題もあつたりとかいう部分もありますし、山の事であればそういうような事もある。それぞれがやっているだけではなく、それを連携してやっていきましょう。直接経済的な活動をしなくても、市民としてこういう自然を楽しむよ、釣りが好きだから釣りにいきたいねとかそういうことも含めてまず何が出来るのか何処が携われるか考えようということと、それを連携させて全体的に総合計画もまさにその考え方なんですけどそういったことを進めていく中で、総合計画は全体としての事なんですけど、ここの場所では、まずやらないといけないのは、特にどういった事を中心でやっていったらそこにつながっていけるか、全てやらなくちゃいけないのですが、全てというといっぺんに出来ないの、特に重点項目を置いて進めていければ皆さんの意見でこういうところだよ、例えば環境保全をしましょうよという案があったらそれじゃあどういったところの取組をしていけばいいのというような事を出して行って全体として進めていくというのが、第二計画の部分なのかなと私自身実感しております、自分たちの出来ることをまず言っていただいて、それを連携して、じゃあ例えばいい魚がとれました。じゃあこれ売りますよといえば商工会関係絡みますよね、漁協もそういう連携をしていくことかな、他にもっていくのであれば流通が始まって消費もどうなんだ、生産と流通と消費をつないだら、一つの流れが出来ますよねということで、一つが出来てくると・・・。そういうようなところまで持っていくとこの地で経済という発想でするんだつたら一つの里海の考え方につながってますねというところかなと思っていますんで、そういった考え方をする場所なんかな、全体的に総合計画を考えるのではなくて個々が具体的に動ける部分で市民も巻き込んでもみんなと一緒にやろうよという部分の具体的に動く部分をワークショップで、考えたらどうかなというのが、私の考え方です。

高山会長

今の納得して頂けました？

山際委員

いえ、私は、船越地区の話でいえば、もう船越の地区民、養殖屋やめて歳いったからやめたからといってさ、結局また海に出てきて、カニ網かけたり何かして何か海に関わってるんさ、だから一人一人は里海の中にいるんや、そういう感じ方しかなないもんで、むしろ海の上におるとね。そういうことだけやもんで。それをどういうふうにまとめていくといわれても、いい考えはそっちで決めてください。里海皆しとるんや。

高山会長

一応範囲指定というと、志摩市の二つの内湾に水が流れ込む範囲と共同漁業権を指定している海の範囲、そこをまとめたものを範囲としますという設定にはなっています。他に、質問とかございませんか。

福田委員

僕単純なんですけど、今日聞かせていただいて、山際さんが言われたように年齢がきてこのあと跡継ぎもおらんし、体の続く内は、浜の事やって海の事やってこうやってやっていきたいんやと、本当にこの地域の人はそうだと思うんですよ。ただ、やはり高齢化が進む中で、この志摩市が次の世代に繋いでいくのに、後継者はやはり必要だと思いますし、志摩市もあと数年すれば、伊勢志摩サミットが終わって、東京オリンピックが終わったあとに、三重の国体があります。志摩をあえて発信していくには、このチャンスというのは、サミットの後、三重国体の時にいかに志摩が立ち上がるか、名前があがるかということに関わってくると思うんですね。今じゃなくて、その五年後、十年後、十五年後に繋いでいく計画だと思いますし、その中で、やはり後継者を作る、それが地元の子たちじゃなくてこの地を訪れてこの地に魅力を感じて移住する人たちがその跡を、ここで昔世界に誇る真珠が養殖出来た場所なんだと、再生していくためにも僕らも昔の人たちがどのような事をやってどのような事をやってきたのかとか、あおさを作るにはどのような形があるのかとか、外海にいけばあわびやさざえやという漁業をどのように再生してこの地域の名産にしていく形というのは、地元の子たちだけでなく、外からも人を呼び込むことも絶対必要でしょうし、その中で基本的に自分たちがやれる役割分担の中で、各機関が各団体がやれる事を一生懸命やってやはり継続維持するために収益を上げることも当然やらないといけないと思うんですよ。収益上げるために、自分たちだけではなしに後継者になるような子たちを育てたりとか空いてる旧家とか、英虞湾を見ると、養殖の跡地とかそういう所を再生して体験できる場所にして真珠組合の人たちとかが指導してあげたり、またいろんな

形で再生する場所が出来ると思うし体験させることも出来ると思いますし、各機関各協会団体が、そういうのを試みて最終的にこういう動きをしたんだよと……。僕自身全くわからないんですけど、こういう事業をして助成金が頂けたりとか活動金が頂けたりとかあるかどうか全く知らないです。初めてこの場所に参加させて頂いたわけですから、ただ皆さんも活動する中で、慈善事業をしているわけではないでしょうし、ビジネスとして将来の設計も考えてこの会が有ると思うんですよね。その中で自分たちがやれる間はいいいけど、その後は知らんわ、そんなん勝手にやっていくやろ、若い衆ら勝手にやってくやろという形じゃなしに、それを残していけるものをするための会と僕は踏まえているんで、そんな中で、各機関各組合等の人たちが連携を取る。あんとこここうこうでこんなやけど、あそこの場所貸したってくれんかな？英虞湾の中の真珠養殖場の跡どこどこにあるやんか、あそこ貸して指導してやってくれへんやろか、こんな人呼んできてやりたいという人おらんやけど、とか……

漁協なら漁協で今では、県外からおとこ海女したりとかいろんな活動して志摩の海を知って、また良さを知って移住する人たちもいますし、真珠でもあり、外海内海でも、磯部でも御田植あり、田んぼあり……

高山会長

あのね、そういう話をワークショップの中で、今日は是非やりたいとおっしゃっていますので、皆さんいろんな希望とか熱意とかお持ちになっているので、なるべく短めにお願ひします。

福田委員

そういう中で、各自が持ちつ持たれつの中でやっていくのは、絶対必要かなとは思いません。

そんな中で、皆さんがどれだけの思いがあるのかという部分で、今僕しゃべりすぎましたけど、ほんとに次世代にもっていけるようにこの会でやってきたプロジェクトを共有出来る部分でもう一回足元をみて次の世代の子たちも入れて反応をみてるのも確かかなと思います。

高山会長

はい、わかりました。今の福田さんの意見の中にも、なるべく幅広い人を巻き込みながらそして、いろんな立場の人が連携しながら何が出来るかを考えましょうというご意見なんです。ですから、ちょうどワークショップの主旨に叶ったご意見を頂いているんですが、ワークショップを進めるもう少し具体的な設定とかいうのは、何か提案ありますか。

西尾副会長

一応、先程事務局から説明していただいた方向で、ワークショップを進めていくのに、何か議題とかありますでしょうか。内容的に色々意見が出ていまして、私を感じたのは、例えばいろんな外にもっと情報発信していかないといけないよというのが、一つのポイントなのかなと、また、さっき蟹を獲って稼いでいるよというような稼げるところの考え方

であるとか、いやいや環境保全をしていかないといけないよとか、そんなところが大きな3つの流れなのかなと皆さんの意見をお聞きして感じたんですが、そういったところを中心にワークショップで話をして頂くと少し具体的に話が進むのかなと思うんですが、そのあたりはみなさん、いかがでしょうか。

高山会長

今、西尾委員が言われたのは、情報発信と稼げる三番目が環境保全ですね。

西尾副会長

情報発信、稼げる・遊べる・学べるはひとくくりで経済、そして環境保全大きくわけるとそんなところを連携していくとうまく里海の形が見えてくるのかなと思うんですが、いかがですかね。

ちょっと時間の方が非常に押してきていますので、この後出来ればワークショップの中でスタッフが見えますので、ちょっと説明をして頂きながら細かい意見を皆さんと、大勢で話していても進まないの、個々でグループで話をして頂きたいと思いますがよろしいでしょうか。

そういった形で進めていきたいと思いますので、お願いしたいと思います。このあと、事項書5番の方になるとと思いますので事務局さんよろしくをお願いします。

事務局浦中

すいません。先程の事項については、資料2補足でちょっと説明させて頂いたんですが、里海創生推進協議会の役割としては、先程山際委員がおっしゃられましたようにそれぞれの事業の中で自然を大切にするとかということをしっかり踏まえて取り組みを進めていく、その他に一人一人が参加して連携出来るような取り組みをどういうふうに進めていくかという議論、それからそれらがどういう成果が出てきているのか共有するという、二番目と三番目があまり出来ていなかったの、その部分を今年の協議会の中では、改めて認識しながら協議を進めて頂くということをご確認頂きたかった部分なんです、そこを踏まえて実際に今年度成果を把握していく上で、50何項目の事業を全て成果を確認していくとなると時間も必要になりますので、いくつかの項目を重点項目として選んで頂いてその部分優先的に成果を確認していこうと作業を今後やっていきたいと思っておりますので、今から優先項目をいくつか選択するという形でワークショップを進めさせて頂きたいと思っております。ワークショップを進めていく上で資料3と資料4を今回ご用意させて頂いております。資料3というのが、A3の横表になった物でして、平成26年度・平成27年度にどんな事業が行われたのか、それから28年度にどんな事業が計画されているのか、それから資料4の1から3までが、重点項目になっている3つの事業について直近でどういうふうに進んで、今後どのように進めるのかというような資料になっているのですが、時間が押しておりますので、詳細に説明することが出来ません。ワークショップを進める中で目を通して頂きながら、ワークショップを進めさせて頂こうと思っております。ここからワークショップ進行担当の岩城に代わります。

事務局岩城

すいません、6年目して皆さんの前に出るチャンスを頂きましたので、短い時間ですが、皆さんと一緒にわくわく思えるようなワークショップになっていければいいかというふうに思っています。先程は、沢山皆さんの意見がありまして何が大事なんだよ、これから何を取り組んでいけないといけないとか話がありましたが、今日はですね何を優先していけばいいのかという項目を見つけていきたいと思います。今皆さんのお手元にお持ちのカラーの資料で、大きな項目と中項目と小項目に分かれているものがありますけど、今日は赤の枠で囲ってある中項目のどこかに入るような取り組みが出てくればいいかなということで、その中を見てどの項目がいいかと選ぶような作業は今なくて結構ですので、皆さんの普段暮らしの中で、またお仕事の中で感じられている肌感で今何がこのまちをこれから元気にしていくために必要かというようなところを思い起こしてメモにして頂ければと思います。では、少し説明をさせていただきます。

まずは、大きく「恵みの保全と管理」というのがありますね。そして次に「稼げる・学べる・遊べる」という資源恵みを利用するということがあります。そして、3つ目に魅力の向上というところで、情報発信等が含まれるカテゴリーがあります。その項目の下に22項目、さらに細分化すると54項目あるんですけども、この中から優先項目を探すということですが、まず優先というのはどういうことかというところを少し例を出して皆さんに優先の共有をして頂ければなと思います。例えば、漁師さんのことを考えると担い手がないとか次世代を育成しないといけないというお話がちらっとあったかと思いますが、担い手がない、次世代を育成していかないといけないという背後にある課題はいったいどういったものでしょうか。私なりにいくつかピックアップしてみました。魚が獲れない、魚が売れない、生活が安定しない、漁師がどんな仕事かよくわからない、教えてもらう機会がない、男社会だから出会いがない(結婚相手が見つかりにくい) とにかく大変そう(大変そうを超える夢が持てない)など私が考えただけでも7つあります。その中でどれも「担い手がない、次世代を育成していかないといけない」という課題の背景にあるものだと思うのですが、どれもこれも一遍にやるというのは難しい。ならば優先的にスピードがあって効果的そしてその後有益に繋がるような次のステップにつながるような事はなんだろうというような事を考えて頂いて優先というものをピックアップして頂きたいと思います。先程から重点という言葉も出ておりますけれども、例えば私が先程揚げたような中で言えば先程の中で重要なことは、「魚が獲れない」というようなところが大きなところで重点課題かなと私は思います。この中でインパクトがあって効果的でどの展開においても有益な考え方が出来るものは何だろうというのを見つけるのが、これからやる「優先」というイメージです。よろしいでしょうか。これは重要だけれども、それをやると10年も20年も先にしか結果が見えない、でもまずこれをすることで、何らかの形が見えてそれが次に繋がるかもしれないというような考え方をして頂ければなというふうに思います。

それでですね、皆さんの目の前に、「恵みの保全」とか5つのカテゴリーに分けたポスター

の裏ですけれども、それがあります。そこに各班に進行役の里海推進室のメンバーが一人ずつ入りますので、まず自分の所属とかどうといわず色々と暮らしの中で、仕事の中で感じておられることを一番優先って何だろうというのを今から一つずつ考えていければと思います。進行役の者が今から付きますので、ワークショップを始めていただければと思います。お時間の方はかなり押してきていますので、全体会議が午後4時頃終了したいと思っていますので、このワークショップ足早ですが、30分位で考えております。皆さんよろしいでしょうか。各進行役のスタッフさん、メンバーに入って頂いて何が優先か、そして最終的には、ベスト3まで挙げて頂けるとありがたいです。

(各班ワークショップの作業に入る)

事務局(4班のまとめ発表)

すいません。最後に皆さんの各班の発表だけさせていただきたいと思います。まず、私の班の方では、やはり稼げるところからやらないといけないでしょう、保全も大事だけれども、稼げるところからやらないといけない。まず、ちゃんと教え教育があつての保全だと・・・この教育に付けた方がいました。続きまして、優先順位3つ付けたと思いますが、まず稼げる里海のまちづくり、そこにいきました。2-1(4)地産地消の推進とあるんですが、その中の地域産品の魅力の情報発信というところに繋がるのでは、まずそこでしょう。地域産品をまず売るといふこと、消費拡大していくというところで、2-1(4)が大事じゃないか。でも、これは地産地消のカテゴリーなんです、もっと外向きに地域で消費するだけでなく、本当に売り上げをあげるために、外に発信しないといけない。とにかく、志摩のいろんな物の売り上げをあげる、効果を出すということ。販売チャンネルを増やすということが出ました。こういった売上を伸ばすためにも、まず一つの業界だけでなく、いろんな業界さんが連携しないといけないというところで、2-1(5)の産業連携の推進というところが出ました。何はともあれ、売上もあがります、産業も連携しますというところで、やはり同じように進めていかないといかないのは、情報の共有・情報の発信ではないかということで、「輝き」のまちの魅力の向上と発信3-(1)ということで、答えが出ました。

事務局(2班のまとめ発表)

ここは、2班のテーブルになるんですが、重点・優先を選ぶ段階では、恵みの保全・稼げる・魅力の向上というところが、重点だったり、優先だったりという形で比較的重点なのか優先なのか混在する形で最初に意見が出てきました。具体的に何をやるかという話の中で、色々出てきたんですが、恵みの保全については、伊勢志摩国立公園ということで、今ブームになっているので、ここの景観を守ることは大事なんだ、まず伊勢志摩に来て「わっ!きれいだ!」という印象を出すことは、まず大事だろうと、併せて干潟を再生してあさが獲れる、保全と遊びが重なっている部分、これは重点事業としてもともとあるところですが、これも大事。稼げるという部分で3つ意見が出ましたのが、遊休農地とか休耕

田とかが多いので、これを使うことが大事じゃないかという意見が3人ございました。その他伊雑の浦の活用とか里海ツーリズムをビジネス化していくことが大事だろうと魅力向上との境ぐらいでもあるんです。あと、学べるというところでは、ホテルとかが環境保全型で経営しているがこれをしっかり取り組んでいく事も魅力の向上にも近いんですが、農産物の収穫体験なんかをしっかりとやっていくことが学べるということに繋がっていくのかなという話になったのですが、最終的に3点何が優先項目かという話の中では、やはり伊勢志摩国立公園というのはこの地域には、はずせないキーワードで最初に外から来られた方が「すごいな」と思う景観にしなければいけないだろうというのが最初の優先項目。二番目は稼げる中でも、ちょっと海から離れるところがあるんですが、農地・森林の保全に取り組むべきではないかというのが、稼げるなかの2 - 1 (2) にありまして、3番目の魅力の向上と稼げるという中で、里海ツーリズムの推進というのがあるんですが、これはある意味輝きの中の市民とか関係者の皆さんがこの地域の魅力が何なのかをしっかりと理解してないとビジネス化出来ないんで、地域の良さを見直していく、自分たちの魅力はこれなんだと認識してこういうビジネスの中に取り組んでいこうということで、項目でいきますと、3 - 1、市民や関係者の取組の目標の共有と理解ということが、優先項目なのかというこの3つになりました。2班以上です。

事務局 (3班のまとめ発表)

では、3班の方の発表をさせていただきます。まず、重要という点では委員さんが、「恵みの保全」と「魅力の向上」と「学べる」というふうに分かれました。しかし、優先ということになりましたら、3班のグループにつきましては、「稼げる」ということで、一致致しました。それで私共のワークショップの流れが一挙にスムーズにいった理由がそこにあります。その中で、やはり生活基盤・若い人の定着そういったことを考えた場合に、稼げるということが優先順位が高いということです。そういう意味で稼げるということがないと市民の実感がない、里海の理解が得られない、そういった意味でも稼げるということを優先してこれから行っていくべきではないかということでもとまりました。その中において、6次産業化ということ、生産・加工・流通を一体として行っていく6次産業化ということが必要ではないか。又観光業との連携、産業連携の推進。観光業が大事だよというあたりですね。それと地産地消もそうですが、学べるというところにある部分を稼げるに繋げまして里海ツーリズムの推進ということで、子供たちが漁業のことを学んだりということが必要なんではないかという意見が「学べる」の方に3名の方が意見を述べられました。それで、最終的にもともとこのグループは、「稼げる」ということが主体となりましたので、その中で関連のある事業はないかということで、3つの事業に絞りました。それが、里海ツーリズムの推進2 - 1 (3)、それから産業連携の推進2 - 1 (5)、それから観光客に対する里海学習や体験学習機会の提供2 - 2 (3)、そういった3点が私共の委員さんの取組の優先となりました。以上です。

事務局大形 (1班のまとめ発表)

それでは、グループ1の発表をさせていただきます。私共重要と優先ということで最初カテゴリーを分ける予定だったのですが、なかなか重要と優先というのが、分けづらいということで、もう1本でさせていただいております。まず、一番優先しなければならないところが「恵みの保全」里海のことを進めていく上ではやはり自然の環境の保全とかそういったものをしていくべきであろうということです。それと次に「魅力の向上」になります。これについては、市民の方々、このまちに住んでいて里海という意識がマンネリ化していて、里海という意識がなかなか伝わりにくいということで、情報発信したり、あと自然体のブランド化、そういったものの魅力をナショナルパークそれとサミットといったものの魅力をもう少し情報発信していければということで、この2つのカテゴリーが優先ということになっています。それで、3つの優先順位なんですが、私1グループは、「稼げる」ということが1番です。その稼げる部分でいいますと、後継者の育成であったり若者の方がいくつかの仕事を組み合わせて適切な年収を得るしくみ作り、これというのは、産業が多種にわたっていて、1年間通してその産業だけでは年間の収入が得られないということで、そういったことで、いろんな組合わせというしくみ作りをしていけばということで、意見が出ました

あとUターンIターンを増やす取り組みということになっています。ただこれも恵みの保全がないとどうしても稼げる部分が難しいと思いますので、恵みの保全があつての稼げるということで、意見がまとまりました。2番目の優先がどちらも「魅力の向上」の部分と「恵みの保全」の部分、中事業でいきますと、自然の恵みと保全の管理の(2)番伊勢志摩国立公園の利用と景観の保全という部分とこれはどちらにも連携しているというか関わりがあるというか、3でまちの魅力の向上と発信(3)地域のイメージの効果的な情報発信ということです。以上です。

高山会長

ありがとうございました。かなり時間が過ぎてしまったので、あまり時間が取れないわけなんですけれども、今集計しましたところ、重なったところが3つあったんですね。それはどこであるか言っていただけますか。

事務局浦中

では、皆さん4班から3項目出して頂きましたので、12項目出たんですが、結構ばらついていまして、2-1「稼げる」ところは、皆さん非常に重点だというふうに見ていただいていることがわかります。その中で、2項目重なっていましたが、2-1(5)産業連携を推進する。6次産業化、農商工連携、いろんな団体がありますが、そういった連携を進めていくという意見が2つ、それから「環境の保全」のところで、伊勢志摩国立公園というキーワードは皆さん大きく重視されているようでして、観光客の方が来られた時に最初にやはり驚くのは、景観の保全であったりというところが、非常に大事だということ、それを守っていくことが非常に重要なのではないかという意見が1(2)ということで多かったんだと思います。それから三番目が、「情報発信」のところで、3

(1)ですけれども、地域の魅力がどういうものであるのか、私たちが持っている資源がどういうものがあるのか自分たち自身がしっかり知る必要があるということで、ここの2項目が出てきたのだと思います。あとは、それぞれ稼げるところを中心に1項目ずつ出ています。

高山会長

2つある項目が3つあったことがわかったということですね。細かいことで大事なことがいくつかあって、その3つの中に関わるだろうというものも、後で、コーディネーターをやった4人の方でちょっと打ち合わせてもらって絞り込んで頂きたいと思います。この3つに絞られた項目について、次の協議会の間までに作業グループを作って、作業グループの中でももう少し話を詰めていただき、次の協議会の時にその作業グループの議論を紹介していただくという形で進めたいと思っています。それでよろしいでしょうね。

事務局浦中

はい、それで結構です。

高山会長

そういう方針ですね。はいよろしいですね。今回3つに絞られましたこれを中心に作業グループで進めて宜しいですかということを協議会で決定していきたいと思います。それで、宜しいでしょうか。

委員一同

よろしいです。異議なし！

高山会長

はい、それでは、3項目について作業グループを作って頂きたいと思います。どのように作るのかは、事務局にお任せしますので、よろしくをお願いします。

事務局浦中

それでは、ワークショップで一応大きく3項目が決まりましたので、ここを重点にこれから作業部会という形で具体的にどんな事業がやられていて、これからより多くの人たちを巻き込んでみんなで連携していくために、どういうふうに事業を見直していけばいいのか、どういうふうにやっていけばいいのか作業部会に通させていただいて、話し合いを協議会までにさせていただきたいと思いますが、事務局を持たれている団体の方につきましては、職員の方に出席依頼をさせて頂くことになると思いますし、それ以外の団体の方につきましては、委員ご本人に出て頂くか、代理で出て頂く方選任をして頂いて事務局の方でこの項目については、この委員さんをお願いしますとある程度打診をさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

高山会長

なるべく協議会では、グループワーク、そして協議会の間は、作業グループでというパターンでこれから限られた時間ですので、進めていきたいと思います。では、あともう一つは、次回はいつ頃か。

濱野委員

すいません。1点だけよろしいですか。このパンフレットが皆さんのところにいっていると思うんですけど、「名水サミット in 志摩」が伊勢志摩ロイヤルホテルさんを会場に開催する予定です。裏をめぐって頂くと10月7日に名水シンポジウムが13時から17時ということで、シンポジウムを開催しますので、ぜひ皆さん又団体の皆さんにご参加頂ければと思います。このパンフレットにつきましては、会員向けですので、上の方に市町村連絡協議会と書いて有りますが、全国大会の案内も出ておりますが、一般の人が参加出来る部分はシンポジウムの部7日の午後1時から午後5時で、武田美保さんも基調講演して頂けるということですので、団体の方も参加無料ですので、参加をよろしくお願ひします。ちょっとお知らせまで。

事務局浦中

不肖私も武田美保さんの前座を務めさせて頂くことになりましたので、ご参加の方是非よろしくお願ひ致します。10月7日金曜日にあります。中身が里海に絡んで天岩戸の神宮林の森から流れる水が、農地を潤し里を潤し水道水として使われ、伊雑の浦を通っての矢湾に出てあおさを育て牡蠣を育てるという流れがあるんだということを理解してもらうような内容に、パンフレットのイメージもそのようなイメージで作られているかと思ひますので・・・里海のまちで開かれる名水サミットとして非常にいい感じになってるんですね。ぜひ、よろしくお願ひします。

それでは、次回の協議会ですが、10月17日の週のくらいで、調整をさせて頂きたいなあと思っております。ちょっとその週くらいで、その週の前後の週含めてご検討ということになると思ひますが、このあたりで改めて調整させて頂きたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

高山会長

今日は、大幅に超過してしまったんですが、このパターンでなるべくこの第二期の協議会もやっていきたいと思ひます。従来型会議だとどうしても参加が不十分になるので、参加するということは非常に大事だと思ひますので、こういう形で次回は慣れたので、もう少し早く進行出来るのではないかと思ひます。今日はご協力ありがとうございました。

委員

一斉に拍手（散会）